

我々の内意は多岐にわたる
等閑打過無き様事年
京都より紹介が淋ね湯

市川俊彦

画をたすは古也は

後士小ねん出張ありし時

小ね代り切歌可はし

驚場し至るまで一春一書

此書は安言法何れし

定てお後我々流回し

くく馬河奈子と電

ありしお家お紅合子海

書追こい書中ていと

是之也是ふ存意に既何

分法鏡出てり守書

恐惶謹言

三宅修平

十月十日

栗山先生

筆

為し物之様大に厚紙に

心てて下筆致し

希くは一紙に付し

念之是書身は後

思ふに下し紙を